

令和4年度 後期基本計画「有識者評価会議」の開催結果について

1 開催概要

- (1) 会議日程 令和4年8月下旬に書面会議により開催
- (2) 評価委員 学識経験者、各種団体の代表者及び公募市民 計25人
(委員長：茨城キリスト教大学 池内耕作教授)
- (3) 対象計画 総合計画 後期基本計画(計画期間:平成29年度から令和3年度まで)

2 評価結果等

(1) 評価結果

計画に登載した462事業の全てに着手するとともに、目標指標及び成果指標の約7割が、設定時の数値を上回ったことから、「概ね計画どおり推進した」と評価された。

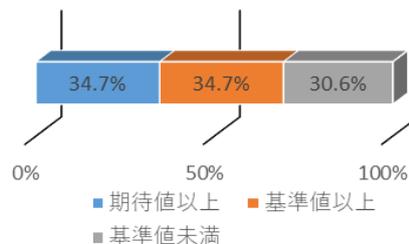
(2) 推進状況

- ア 登載事業：計画に登載した462事業の全てに着手した。
- イ 目標指標：設定した61指標のうち、コロナの影響を著しく受けた12指標を除く、49指標の69.4%（34指標）が、基準値を上回った。
- ウ 成果指標：施策に対する市民の満足度（市民ニーズ調査結果）である本指標は、42指標のうち、37指標（88.10%）が基準値を上回った。

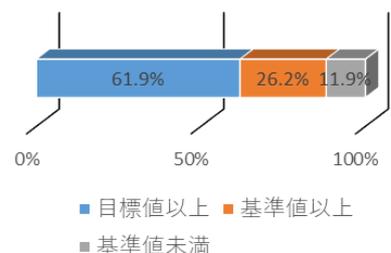
ア 登載事業の取組状況



イ 目標指標の達成状況



ウ 成果指標の達成状況



3 評価委員からの主な意見

【意見】

計画された諸事業が「目標達成」に寄与したかという点について、「手段の進捗(Output)」と「目的の達成(Outcome)」を峻別し、双方ともしっかり測らねばならない。次の計画において、事業計画だけでなく評価計画(評価指標)がより精密化されることを期待する。

【回答】

行政のさまざまな活動を、「市民にとっての効果は何か」「当初期待した目的どおりに成果が上がっているか」といった視点で評価・検証することが求められております。新たに始まった総合計画における事業評価については、アウトカムとアウトプットを区別し、より効率的で効果的な行政運営に努めてまいります。

以上